

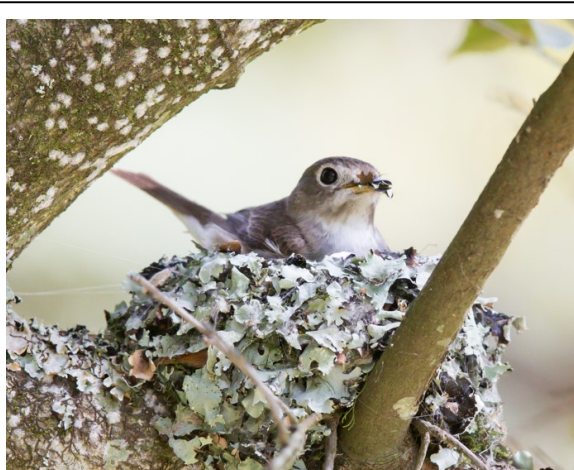
コサメビタキ *Muscicapa dauurica* Pallas

【選定理由】

県内の落葉広葉樹林に飛来して繁殖するが、近年繁殖期の生息数が減少しており、繁殖分布にも縮小傾向がみられる。囀りや地鳴きの確認が困難なこともあるが、近縁で繁殖環境や生態がよく似ているキビタキの生息数は増加して、分布域も著しく拡大している。両種の差には、どのような要因が関係しているのか疑問である。春秋の渡りでも以前のような数が見られず、全国的にも漸減傾向にあることが推測される。

【形態】

全長 13cm。上面は灰褐色で、雨覆と風切は褐色味が強く羽縁が淡黄褐色。胸と脇は淡い灰褐色で下胸から腹にかけては白っぽい。眼の周辺に白い縁取りがあり、眼先は白色で褐色の顎線がある。嘴は黒色で下嘴の基部は橙黄色。脚は黒色。



愛知県豊田市, 2017年4月22日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

夏期に、標高およそ 100m 以上の丘陵地や山地に飛来して繁殖する。渡りの季節には渡りコースの山塊や半島だけでなく、河川敷や都市部の公園などでも見られる。

【国内の分布】

夏鳥として飛来し、九州以北の低山で繁殖する。

【世界の分布】

インド、ヒマラヤ、バイカル湖周辺からアムール、ウスリー、中国東北部、サハリン、日本で繁殖し、冬期はインドから中国南部、東南アジアで越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

夏期に丘陵地や山地の落葉広葉樹林に飛来して繁殖する。巣は樹木の横枝に蘚苔類や樹皮、クモの糸などを使って皿形に作り、表面にウメノキゴケを貼り付けて木のコブのようにみせる。餌は主に昆虫やクモなどで、飛翔する昆虫を捕食することも多い。ツィーチリリチョピリリなど細く複雑な声で囀り、地鳴きは、ツイ、ツイと聞こえる。

【現在の生息状況／減少の要因】

標高 1,000m 以上の茶臼山や段戸裏谷から、瀬戸市や岡崎市の山麓まで繁殖期の記録があるが、生息数は多くない。1970年代までは岩屋堂でも営巣が確認されていたが、近年は繁殖期の記録がなくなっている。また、段戸裏谷でも 1980年代以降緩やかに減少し、近年繁殖期の確認記録はかなり少なくなっている。

【保全上の留意点】

地球温暖化により、日本を繁殖分布の南限とする種の繁殖数減少が指摘されているが、比較的標高の低い疎林にも繁殖する本種では、落葉広葉樹の疎林が減少していることが減少の要因と推測される。衰退している県内の農林業を振興することが必要で、山に手が入ることにより里山の林の照葉樹林化やジャングル化を防ぐことも大切であると思われる。

【特記事項】

日本では夏鳥とされているが、越冬期である 2000年12月から2001年1月には安城市の公園で1羽が、1993年1月にも西尾市の公園で生息している1羽が確認されている。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.291. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)